

日本語で書かれた医学系論文の序論に関する調査報告

渡 邊 ゆかり

1. は じ め に

現在、多くの大学が初年次教育の一環として行っている取り組みの一つに、レポートや論文の書き方、すなわちアカデミック・ライティングの指導があげられる。このような取り組みは「①レポートや論文が大学での学びの成果を示す指標の一つであること」「②新入生は大学入学前にレポートや論文を執筆した経験がほとんどなく、執筆方法がよくわからないこと」に動機づけられている。アカデミック・ライティングに関するテキストは、これまでに多数出版されており、アカデミック・ライティングのための教材は、以前に比べ充実してきた。しかし、アカデミック・ライティングの指導に当たる教員からは、市販のテキストに記載されている手法が自分の学問分野の手法と異なるという声も聞かれる。これは、アカデミック・ライティングの手法として、各学問分野に共通する部分がある一方、分野により異なる部分も少なくないことを示唆している。

教養教育を重視する大学においては、様々な学問分野の授業を履修できるカリキュラムを学生に提供しているものの、分野の相違によりアカデミック・ライティングの手法が異なることに戸惑いを覚える学生も少なくない。このような戸惑いを軽減するためには、アカデミック・ライティングに携わる者が各分野でアカデミック・ライティングの手法が異なるという現実を認識するだけでなく、どのような相違が存在するかを把握することも重要である。

アカデミック・ライティングに関するこれまでの研究は、ほとんどが教育活動上の実践報告の類であり、管見の限り、各学問分野におけるアカデミック・ライティングのプロトタイプについて調査、分析したものは存在しない。

従って、稿者は、この試みの出発点として、まず日本語論文における序論の書き方についての調査を開始することとした。

今回は、将来的に、CiNii Articles¹の人文科学、法学、経済学、理学、工学、農学、医学の7分野（2016年4月現在）における序論の書き方を比較することを念頭に、手始めとして医学分野における日本語論文の序論に関する調査を行った。

2. 研 究 方 法

2.1 調査対象とする論文

今回は、以下の条件を満たす論文を調査対象とした。

〈調査対象とする論文の条件〉

CiNii Articles に登録された日本語論文のうち、2016年4月1日現在、オープンアクセス可能なもので以下の A-C の下位条件をすべて満たすもの。

- A. 医学に分類されるもののうち公刊年が2013年のもの。
- B. 総ページ数（注、参考文献リスト等を含む）が6ページ以上20ページ以内のもの。
- C. 論文（概説、調査報告、研究ノートを含む）を対象とする。ただし、口頭発表用の論文、雑誌の巻頭言、講演録、受賞記念論文、回顧録は除く。

このような条件に合致する論文は229件であった。なお、これら229件の論文の NII 論文 ID (NAID) は、稿末に添付する。

2.2 調査対象とする序論の定義

『広辞苑第6版』では、序論は以下のように定義されている。

じょ・ろん【序論】著述や論文などで、本論の理解を助けるため、本論の前に置かれる文章。(p. 1419)

また、『日本国語大辞典第2版』第7巻には、以下のような記載がある。

じょ-ろん【序論】『名』研究論文などで、前おきとして初めに述べる概括的な論説。緒論。叙論。(p. 414)

いずれの場合も、序論で何を記述するかについては具体的に記載されていない。しかし、一般には、次のようなセクションをさすことが多い。

- ① 論文本文の冒頭にあり、「はじめに」「最初に」「緒言」といった、通常、序論をさすのに使用するタイトルの付いたセクション
- ② 論文本文の冒頭にあり、研究や論文の方向づけが記されている文（以下、「方向づけ文」と称す）を含むセクション

従って、本研究では、上記①、②のいずれかに該当するものを、「序論」とする。その際、「要旨」というタイトルのセクションは、たとえ冒頭に置かれていたとしても、論文本文の冒頭セクションとして扱わないこととした。

なお、②の方向づけ文は、「研究の目的」「研究で行ったこと」「論文の目的」「論文で行う（行った）こと」のいずれかを記した文をさすものとする。これらの記述方法には、明示的なものから暗示的なものまで存在するが、次の(1)(2)のように問題点を指摘しているだけの文や、(3)のように体験、経験を述べているだけの文や、(4)のように調査対象のみが示されている文は、方向づけ文とみなさない。

- (1) しかし、過去の重症児の父親に関する研究において、父親役割を遂行するための調整過程の詳細は十分検討されていない。(110009634892)
- (2) 特に、子どもの病気や障害は家族全体に影響を及ぼすことから、家族が持っている強さや問題解決能力を発揮できるような支援を考える上で、本概念が有用ではないかと考えた。(1100097983802)
- (3) 今回、我々は植物性脂肪を主成分とした栄養食品の摂取によって発症し、*Mycobacterium fortuitum* 感染を合併した外因性リポイド肺炎を経験した。(110009597487)
- (4) 本研究では小児看護経験が豊富な看護師として、「中堅レベル」の次の段階である「達人レベル」に該当する看護師を対象に調査することが望ましいと考え、その目安として小児看護経験が5年以上の看護師に依頼することとした。(110009634899)

2.3 調査、分析の観点

本研究では、以下の3つの観点から調査、分析を行った。

- 観点1 序論のセクションの有無、段落数、タイトル
- 観点2 方向づけ文の初出段落
- 観点3 方向づけ文の表現類型

なお、方向づけ文には、次の(5)–(7)のように方向づけが明示的なものと、(8)–(9)のように方向づけが暗示的なものが存在した。

- (5) そこで本研究では、日本における大学バスケットボール選手における傷害特性に関する疫学的調査を実施し、傷害特性の現状と疫学調査における問題点について検討することを目的とした。(110009688420)
- (6) 本総説ではいかに口腔領域のリンパ管研究が遅れているか、そして現在我々が注目している口腔領域リンパ管の利用方法、さらに癌治療や再生医療においてリンパ管の機能の何が期待できるかを紹介する。(110009661243)
- (7) 筆者らは本稿で軟性気管支鏡の歴史(図1)を記述したが、(110009635598)
- (8) そこで実際に自殺を図った断酒連盟に加入する当事者に貴重な経験を尋ね、どのような要因が自殺に関与していたのか、彼らが望む支援は何かをデータとして蓄積する必要があると考えた。(110009611492)
- (9) そこで、思春期に小児がんを発症した患児の入院体験を明らかにすることで、対象理解に示唆が得られると考える。(110009603481)

(5)–(7)では、文全体あるいは独立性の高い従属節全体で方向づけを行っているのに対し、(8)では、方向づけの内容が、方向づけの理由を表す文中に埋め込まれている。また、(9)では、方向づけの内容が、それがもたらす成果を示す文中に埋め込まれている。それゆえ、(8)–(9)の方向づけの内容は、語用論的に含意されてはいるものの、次の(10)–(11)のように、波下線部を施した後文脈を加えることで、その含意を打ち消すことも可能である。

- (10) そこで実際に自殺を図った断酒連盟に加入する当事者に貴重な経験を尋ね、どのような要因が自殺に関与していたのか、彼らが望む支援は何かをデータとして蓄積する必要があると考えた。本稿では、将来的にそのような調査を行う準備段階として、断酒連盟の活動内容について報告する。
- (11) そこで、思春期に小児がんを発症した患児の入院体験を明らかにすることで、対象理解に示唆が得られると考える。本稿では、将来的にそのような調査を行う準備段階として、思春期に小児がんを発症した患児に対するケアの現状を報告する。

本調査においては、観点2の調査を行う際、明示的な方向づけ文が存在する場合には、この初出を、方向づけ文の初出として位置づける。また、暗示的な方向づけ文しか存在しない場合

は、暗示的な方向づけ文の初出を、方向づけ文の初出として位置づける。

ここに挙げた観点1～観点3は、いずれも、序論の書き方について言及する際、研究者間で見解の相違が見られるものである。次の第3節では、これらの観点にもとづき行った調査結果を見ていく。

3. 調査結果

3.1 序論の有無・序論の段落数・序論のタイトル

ここでは、まず、序論の有無についての調査結果を示す。2.2項に示した「序論の認定条件」に合致する序論を含む論文は、今回調査対象とした229件中、224件であった。すなわち、調査対象とした論文のおよそ98%が2.2項であげた①②の少なくともいずれか一つの条件を満たしていた。①を満たす論文、②を満たす論文、①②のいずれも満たす論文の件数は、以下の表1の通りである。

表1 序論の条件を満たす論文数と割合

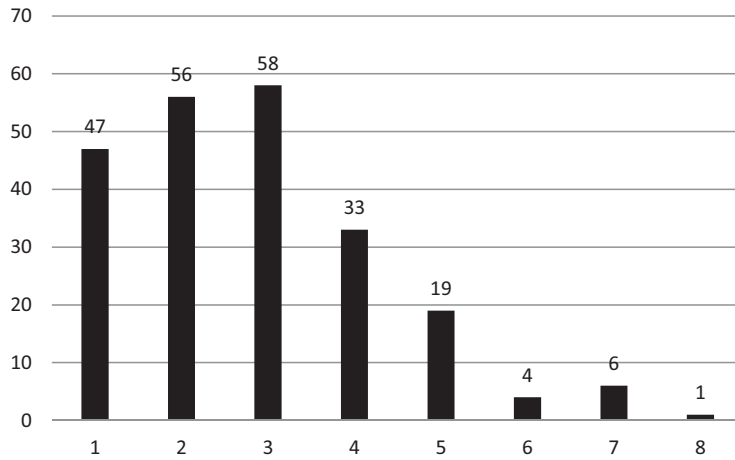
①②のいずれかを満たす論文	224件	約98%
少なくとも①を満たす論文	216件	約94%
少なくとも②を満たす論文	205件	約90%
①②のいずれも満たす論文	197件	約86%

表1より、医学系の論文では、「はじめに」「最初に」「緒言」など、通常、序論をさすのに使用するタイトルを付したセクションを論文の本文冒頭に置くことが極めて多いことがわかる。また、本文の冒頭セクションで研究や論文の方向づけを述べる割合もかなり高い。加えて、両方の条件を満たしている論文の割合も、約86%と高い値となっている。

次に、序論の段落数を取り上げる。序論を含む論文として認定した224件について、序論の段落数を調査したところ、結果は、次のグラフ1のとおりであった。なお、横軸の数値は序論の段落数を示し、縦軸の数値は各段落数の序論の数を示している。

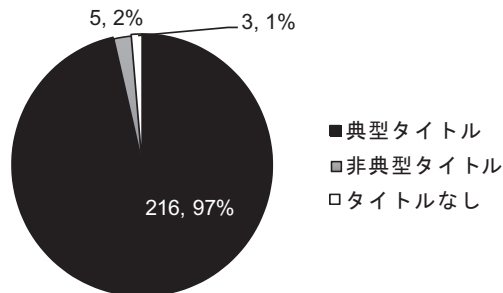
グラフ1に見るように、3段落構成の序論が最も多く、次いで2段落構成、1段落構成、4段落構成の順に多い。平均段落数は、約2.7段落であり、標準偏差は、約1.50であった。

最後に、序論のタイトルを取り上げる。序論を含む論文として認定した224件について、タイトルを調査したところ、「『はじめに』『最初に』『緒言』といった、通常、序論をさすのに使用するタイトル」(以下「典型タイトル」と称す)、「通常、序論以外のセクションにも使用する



グラフ1 序論の段落数とそれぞれの段落数の序論数

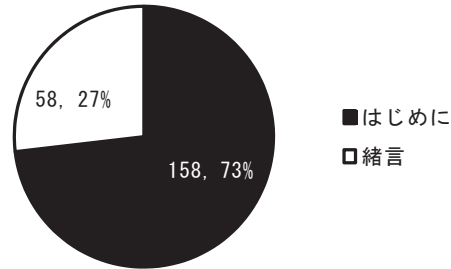
るタイトル」(以下「非典型タイトル」と称す)、タイトルが付していないもの(以下「タイトルなし」と称す)の割合は、次のグラフ2の通りであった。



グラフ2 序論のタイトルのタイプ

グラフ2より、医学系の論文においては、序論のタイトルとして典型タイトルを用いる比率が極めて高いことがわかる。典型タイトルに使用されていたタイトル名とその使用比率は、次のグラフ3の通りであった。

グラフ3に見るように、典型タイトルとして使用されていたのは、「はじめに」と「緒言」の2種類のみであり、このうち、「はじめに」の方が「緒言」よりも多く用いられていた。なお、「緒言」を使用した序論の中には、タイトルつき下位セクションを含むものが1件存在し、「はじめに」を使用した序論の中には、副題が添えられたものも存在したが、いずれも「緒言」「はじめに」と同等のものとしてカウントした。



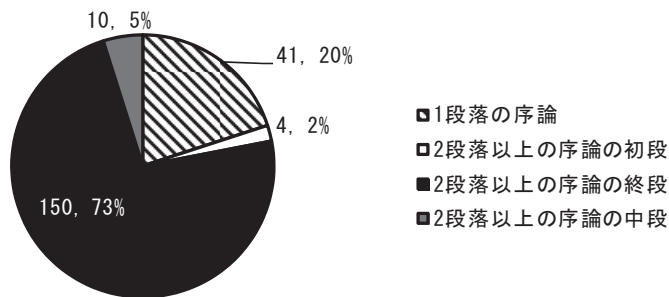
グラフ3 典型タイトル名と使用比率

一方、非典型タイトルを用いた序論は、5件のみであり、タイトル名としては「研究の背景」「背景」「目的」「小児リハビリテーション-乳幼児期における課題」「小児リハビリテーションと成人期」が用いられていた。

以上、3.1項では、序論の有無、序論の段落数、序論のタイトルについての調査結果を見てきた。次の3.2項では、方向づけ文の初出段落についての調査結果を見ていく。

3.2 方向づけ文の初出段落

本稿で序論と認定した224件の序論うち、方向づけ文を含むものは、205件であった。この205件について、方向づけ文の初出が何段落目に現れているかを調査したところ、結果は次のグラフ4の通りであった。



グラフ4 方向づけ文の初出段落

グラフ4より、2段落以上の序論では、方向づけ文が、主に終段に初出することが読み取れる。また、終段に初出しない場合も、初段に初出することは極めて少ないことがわかる。

2段落以上の序論の終段や中段に方向づけ文が初出する序論では、方向づけ文の初出段落より前の段落で研究の背景が述べられていた。また、2段落以上の序論の初段に方向づけ文が初

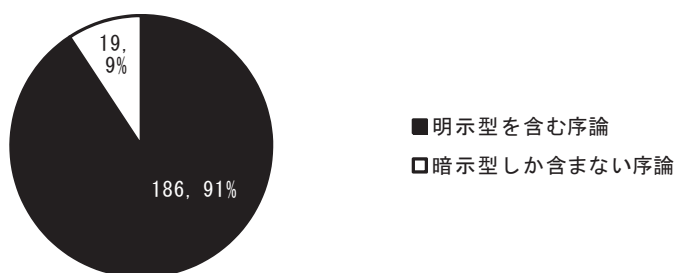
出する序論4件においても、方向づけ文は、いずれも1文目には初出せず、必ず、研究の背景を表す文がこれに先行していた。加えて、1段落の序論41件においても、方向づけ文は、いずれも1文目には初出せず、必ず、研究の背景を表す文がこれに先行していた。

以上、3.2項では、方向づけ文の初出段落についての調査結果を見てきた。次の3.3項では、方向づけ文の表現類型についての調査結果を見ていく。

3.3 方向づけ文の表現類型

3.3.1 明示的方向づけ文を含む序論と暗示的方向づけ文しか含まない序論

まず、方向づけ文を含む序論205件のうち、明示的方向づけ文を含む序論と暗示的方向づけ文しか含まない序論の割合を取り上げる。両者の割合は、以下のグラフ5の通りであった。



グラフ5 明示的方向づけ文を含む序論と暗示的方向づけ文しか含まない序論の割合

グラフ5より、明示的方向づけ文を含む序論の方が、暗示的方向づけ文しか含まない序論に比べかなり多いことがわかる。

3.3.2 明示的方向づけ文の表現類型

次に、明示的方向づけ文に用いられる表現類型を取り上げる。

まず、方向づけ文の主題について、「主題が明示されているもの、照応する先行詞から主題が予測できるもの」と「主題が非明示的なもの」²の割合を調べたところ、結果は、次のグラフ6の通りであった。なお、「主題が明示されているもの、照応する先行詞から主題が予測できるもの」のうち、照応する先行詞から主題が予測できるものは、3件のみであった。

グラフ6に見るように、明示的方向づけ文では、主題を明示することが多いものの、主題を明示しない方向づけ文もある程度存在している。

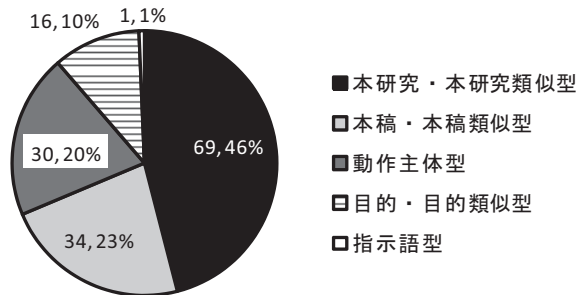
続いて、主題が明示されていたり、照応する先行詞から主題が予測できる方向づけ文において、どのような主題が用いられているかを調査したところ、結果は、表2ならびにグラフ7の



グラフ6 明示的方向づけ文の主題の明示性

表2 明示的方向づけ文の主題の表現バリエーション

本研究・本研究類似型	本研究では(50), 本研究は(14), 本研究においては(1), 本研究において(1), この研究では(1), 本調査は(1), 本調査研究では(1)
本稿・本稿類似型	本稿では(22), 本稿においては(3), 本稿は(2), 本論では(2), 本項では(1), 本項においては(1), 今回の報告では(1), 本報告では(1), 本総説では(1)
動作主体型	我々は/われわれは(26), 筆者らは(2), [団体名]+では(1), [団体名]+は(1)
目的・目的類似型	本研究の目的は(15), 本研究のおもな目的は(1)
指示語型	ここでは(1)

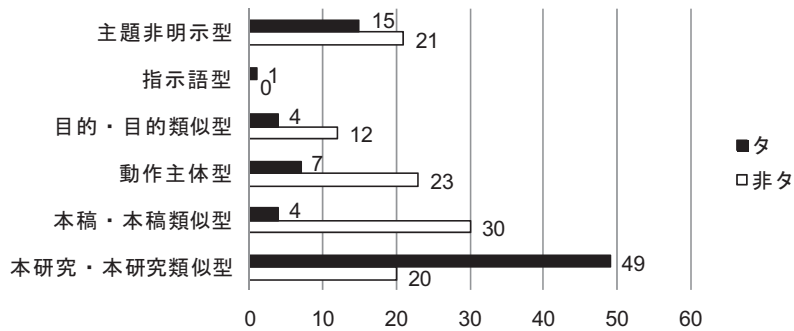


グラフ7 明示的方向づけ文の主題のバリエーション

通りであった。

表2ならびにグラフ7に見るように、主題には、大きく「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」の5つのバリエーションが存在した。また、これらのうち「本研究・本研究類似型」の主題が最も多く用いられていた。

続いて、明示的方向づけ文の述語のテンスについての調査結果を示す。次のグラフ8は、「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」「主題非明示型」の主題と呼応する、タ形述語、非タ形述語の出現数を示している。



グラフ8 明示的方向づけ文の述語のテンス

グラフ8より、「本研究・本研究類似型」では、タ形述語がより多く用いられているのに対し、「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」では、逆に非タ形述語がより多く用いられていることがわかる。

続いて、明示的方向づけ文の述語の文末形式についての調査結果を示す。次の表3は、「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」の主題と呼応する、述語の文末バリエーションを示している。

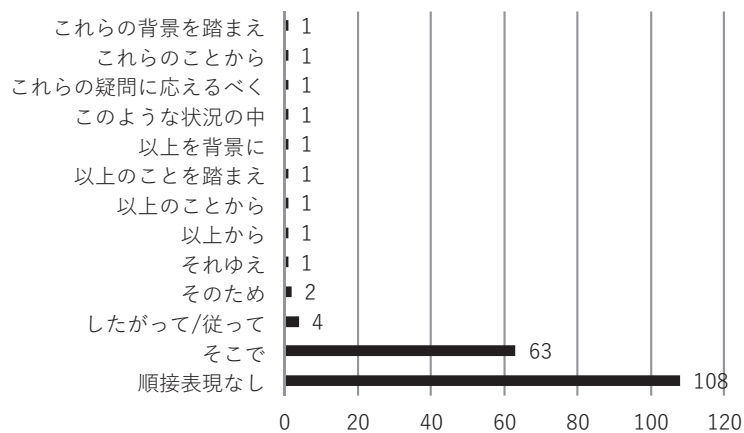
表3 明示的方向づけ文の述語の表現バリエーション

本研究・本研究類似型	目的とした(33)、本動詞の非丁寧・過去形(13)、本動詞の非丁寧・非過去形(11)、目的とする(6)、明らかにする(2)、こととした(2)、目的としている(1)、目的にした(1)
本稿・本稿類似型	本動詞の非丁寧・非過去形(22)、本動詞の非丁寧・過去形(2)、本動詞-たい(2)、本動詞の丁寧・非過去形(1)、本動詞-ていきたい(1)、本動詞-ていきます(1)、本動詞-させていただく(1)、目的とする(1)、目的とした(1)、こととした(1)、ものである(1)
動作主体型	本動詞の非丁寧・非過去形(22)、本動詞の非丁寧・過去形(6)、本動詞-ている(1)、本動詞-てきた(1)
目的・目的類似型	ことである(12)、こととした(2)、検討とした(1)、本動詞の非丁寧・過去形(1)
指示語型	本動詞の非丁寧・過去形(1)

表3に見るように、「本研究・本研究類似型」の主題は、「目的とした」で終わる述語と呼応することが多く、「本稿・本稿類似型」「動作主体型」の主題は、本動詞の非丁寧・非過去形で終わる述語と呼応することが多く、「目的・目的類似型」の主題は、「ことである」で終わる述語と呼応することが多い。

最後に、明示的方向づけ文の導入方法についての調査結果を示す。先に述べたように、方向

づけ文は、研究背景を記述した後に初出する傾向にある。また、直接、研究背景に続いて初出することもあれば、研究背景と関わる問題点の指摘に続いて初出する場合や、研究背景と関わる経験・体験に続いて初出することもある。が、いずれにしろ、方向づけ文と先行文脈は、意味的には、順接関係にあるため、方向づけ文を導入する際には、しばしば、文頭に順接表現が置かれる。以下のグラフ9は、明示的方向づけ文の文頭に置かれる順接表現と使用頻度を示している。



グラフ9 明示的方向づけ文の文頭に置かれる順接表現と使用頻度

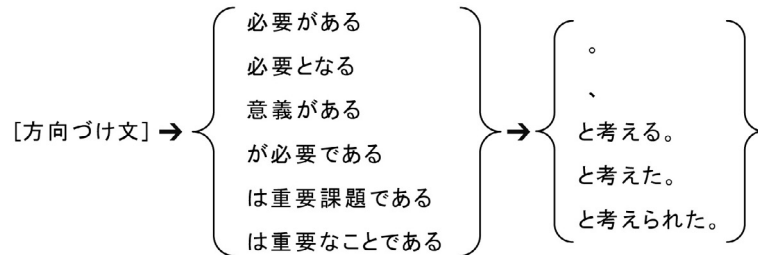
グラフ9より、明示的方向づけ文の文頭には、順接表現を置かないことが多いこと、順接表現を置く場合は、「そこで」がよく用いられる傾向にあることがわかる。

3.3.3 暗示的方向づけ文の表現類型

次に、暗示的方向づけ文に用いられる表現類型を取り上げる。

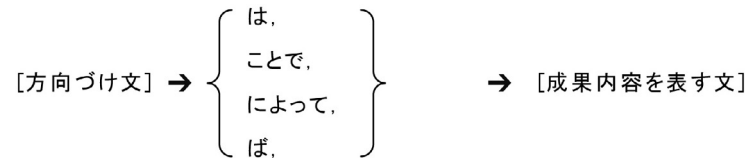
暗示的方向づけ文しか含まない序論中の暗示的方向づけ文には、大きく、方向づけの内容の必要性に言及するものと方向づけの内容がもたらす成果に言及するものの2種類が存在した。以下前者を必要性の提示文、後者を成果の提示文と呼ぶこととする。両者のうち、必要性の提示文は11件、成果の提示文は7件存在した。また、必要性の提示文においては、以下のような文型が用いられていた。

〈必要性の提示文の表現類型〉

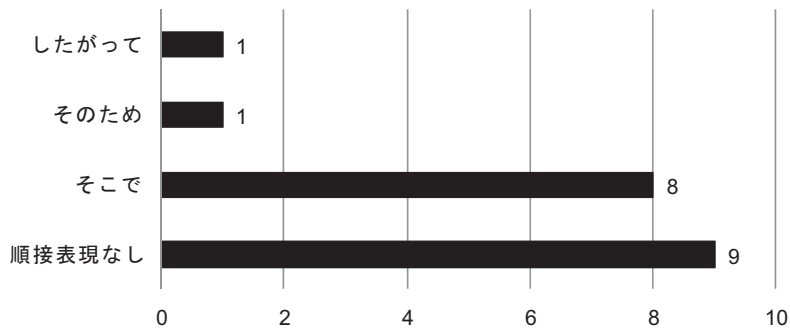


一方、成果の提示文においては、以下のような文型が用いられていた。

〈成果の提示文の表現類型〉



さらに、暗示的方向づけ文の文頭に置かれる順接表現とその使用頻度は次のグラフ10の通りであった。



グラフ10 暗示的方向づけ文の文頭に置かれる順接表現と使用頻度

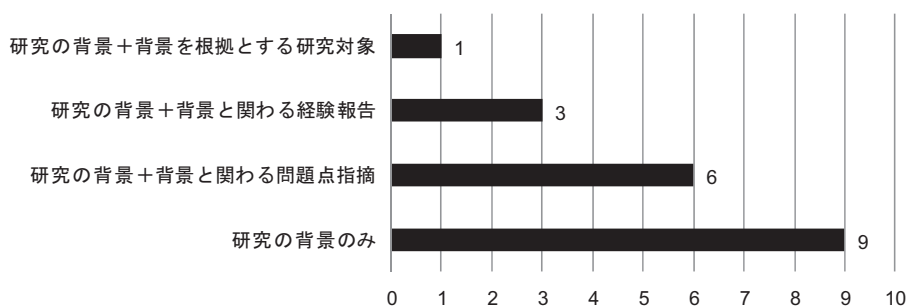
グラフ10からは、暗示的方向づけ文においても、明示的方向づけ文と同様、文頭に順接表現を置かないことが多いこと、順接表現を置く場合は、「そこで」がよく用いられる傾向にあることがわかる。

最後に、暗示的方向づけ文しか含まない序論について、序論に続くセクションのタイトルを

調査したところ、19件中17件において、「目的」「調査目的」「研究目的」のいずれかが用いられていた。すなわち、これらにおいては、主に方向づけを行うセクションが、序論とは別に準備されていた。

3.3.4 方向づけ文を含まない序論の特徴

ここでは、方向づけ文を含まない序論の記述的特徴を見ていく。3.2項で述べたように、本稿で序論と認定した224件の序論うち、方向づけ文を含むものは205件である。つまり、方向づけ文を含まない序論は19件存在した。この19件の序論の記述内容を調べたところ、結果は、次のグラフ11の通りであった。



グラフ11 方向づけ文を含まない序論の記述内容

グラフ11に見るように、いずれの序論にも研究の背景が含まれている。また、研究の背景のみの序論だけでなく、研究の背景に加え、背景と関わる問題点を指摘している序論や、背景と関わる経験報告を行っている序論も存在していた。次の(12)(13)は、それぞれ、研究の背景に加え、背景と関わる問題点を指摘している序論と背景と関わる経験報告を行っている序論に相当する。

- (12) 心臓カテーテル検査は、血管にカテーテルを通すという手技や造影剤などにより循環動態に影響がある。また小児の場合、全身麻酔下で行うことが多いことから呼吸器系にも影響を与え、身体の負担が大きい。検査後は、再出血防止のために穿刺した部位を圧迫固定し一定時間安静にする必要があるため、子どもにとって苦痛な検査ともなりうる。このような心臓カテーテル検査における子どもの苦痛を軽減し、安全に実施するために各施設ではさまざまな看護の取り組みがされている。

成人患者の心臓カテーテル検査に関する看護文献レビューでは(細名, 久米, 佐久

間他, 2007), 国内外での研究論文が少なく, いずれの介入研究も十分に効果が検証されていなかったことが明らかになっている。小児は認知能力も言語表現も発達過程にあることから, 検査の説明や安静保持の方法など成人とは異なった看護が必要とされるが, 研究成果が系統的に整理されておらず, これまでの看護の成果と課題が明らかになっていない。(110009798401, 下線は稿者による)

- (13) 外因性リポイド肺炎は, 油脂類の誤嚥・吸入によって発症する疾患で, 流動パラフィンなどの鉱物油が原因となることが多い。今回, 我々は植物性脂肪を主成分とした栄養食品の摂取によって発症し, Mycobacterium fortuitum 感染を合併した外因性リポイド肺炎を経験した。(110009597487, 下線は稿者による)

(12)や(13)に見られる, 背景と関わる問題点の指摘や, 背景と関わる経験報告は, 方向づけの理由としての役割を果たしている。この点において, これらの文は, 方向づけの内容を語用的に含意していると捉えることもできる。しかし, 方向づけの内容そのものを表す文が序論中に存在しないので, 本稿では, 3.3.3項で見た暗示的方向づけ文と異なるものとして扱う。

最後に, 方向づけ文を含まない序論について, 序論に続くセクションのタイトルを調べたところ, 19件中4件において, 「研究目的」というタイトルが使用されていた。すなわち, 方向づけ文を含まない序論を含む論文についても, 主に方向づけを行うセクションが序論とは別に準備されているものが一部存在した。また, この4件の「研究目的」というタイトルのセクションは, いずれも, 背景と関わる問題点の指摘が行われた序論の後に現れていた。

以上, 第3節では「序論のセクションの有無, 段落数, タイトル」「方向づけ文の初出段落」「方向づけ文の表現類型」の三つの観点からの調査結果を示してきた。次の第4節では, 本調査結果に対する分析を行う。

4. 分 析

一つ目の「序論のセクションの有無, 段落数, タイトル」という観点の調査からは, まず, 今回調査対象とした医学系論文において, 以下の①を含む論文が約94%, ②を含む論文が約90%と多くを占めていることが明らかとなった。

- ① 論文本文の冒頭にあり, 「はじめに」「最初に」「緒言」といった, 通常, 序論をさすのに使用するタイトルの付いたセクション

② 論文本文の冒頭にあり、方向づけ文を含むセクション

また、①②のいずれかを含む論文は98%、①②のいずれも含む論文は86%であった。次に、序論の段落数については、3段落構成の序論が最も多く、次いで2段落構成、1段落構成、4段落構成の順に多いことが明らかとなった。最後に、序論のタイトルについては、通常、序論を指すのに使用するタイトルとして、「はじめに」と「緒言」の2種類が用いられていた。

これらのことから、医学系論文においては、序論として、「はじめに」「緒言」というタイトルの付いたセクションや、方向づけ文を含むセクションを置く傾向にあると見ることができる。また、このようなセクションは、1段落～3段落で構成されることが多く、中でも3段落が特に好まれる傾向にあると見ることができる。

続いて二つ目の「方向づけ文の初出段落」という観点からの調査からは、まず、2段落以上の序論では、方向づけ文が、主に、終段に現れることが明らかとなった。次に、方向づけ文が2段落以上の序論の初段に初出する場合や、1段落構成の序論に初出する場合も、1文目に初出することはないことが明らかとなった。また、いずれの場合も方向づけ文に先行して研究の背景が述べられていた。

これらのことから、医学系論文においては、研究の背景を記述した上で方向づけを行うことが一般的であるとともに、終段で方向づけを行う傾向にあると見ることができる。

最後に、三つ目の「方向づけ文の表現類型」という観点からは、まず、明示的方向づけ文を含む序論の方が、暗示的方向づけ文しか含まない序論に比べ、かなり多いことが明らかとなった。また、明示的方向づけ文については、以下のことが明らかとなった。

- 主題を明示することの方が多いが、主題を明示しない方向づけ文もある程度存在する。
- 主題には、大きく「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」の5種類のバリエーションが存在し、この中では、「本研究・本研究類似型」が最も多い。
- 「本研究・本研究類似型」ではタ形述語がよく用いられるのに対し、「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」では非タ形述語がよく用いられる。
- 方向づけ文の導入に際し、文頭に順接表現を置かないことが多く、順接表現を置く場合は、「そこで」がよく用いられる。

これらのことから、医学系論文では、明示的方向づけ文の表現類型としてタ形述語と呼称しやすい「本研究・本研究類似型」の主題を取る文が相対的によく用いられる傾向にあると見る

ことができる。また、「主題を明示しない方向づけ文も一定数存在すること」や「方向づけ文の導入に際し、文頭に順接表現を置かないことが多いこと」から、文章間の論理関係の把握を読者の推測に委ねた記述スタイルも浸透していることが示唆される。

一方、暗示的方向づけ文しか含まない序論中の暗示的方向づけ文については、以下のことが明らかとなった。

- 暗示的方向づけ文には、大きく、方向づけの内容の必要性に言及するものと、方向づけの内容がもたらす成果に言及するものの2種類が存在する。
- 方向づけ文の導入に際し、文頭に順接表現を置かないことが多く、順接表現を置く場合は、「そこで」がよく用いられる。
- 方向づけを行う、タイトルつきセクションが、序論とは別に準備されていることが多い。このようなスタイルを取る論文は、いずれも『日本小児看護学会誌』に収録されていた。

これらのことから、今回の調査で、暗示的方向づけ文しか含まない序論がある程度存在した背景には、特定誌の記述的慣例が関わっていると見ることができる。なお、本稿では、冒頭セクションのみを序論として位置づけたが、背景と方向づけが二つのタイトルつきセクションに分離されているものについて、これら二つのセクションを合わせて序論と見る捉え方も可能であろう。

この他、方向づけ文そのものが存在しない序論については、調査の結果、以下のことが明らかとなった。

- いずれの序論にも研究の背景が含まれている。
- 研究の背景に加え、背景と関わる問題点を指摘している序論や背景と関わる経験報告を行っている序論も一部存在する。
- 研究の背景と関わる問題点の指摘や、研究の背景と関わる経験報告は、方向づけの理由としての役割を果たしている。
- 方向づけを行うセクションが序論とは別に準備されているものが、一部存在する。

これらのことから、医学系の論文において、序論が、研究の背景を踏まえた上で記述される傾向にあることがうかがえる。

以上、医学系論文の序論の特徴について、「序論のセクションの有無、段落数、タイトル」「方

方向づけ文の初出段落」「方向づけ文の表現類型」の三つの観点から分析を行ってきた。これらの分析をさらにまとめると、以下のことが言える。

医学系論文では、主に1段落～3段落で構成される、「はじめに」「緒言」といったタイトルのセクションを、序論として冒頭に置く傾向にあり、そこでは、研究の背景記述や、研究あるいは論文の方向づけが行われる傾向にある。ただし、機関誌によっては、研究の背景記述と方向づけを別々のタイトルつきセクションで行うこともある。

また、方向づけ文には、明示的方向づけ文と暗示的方向づけ文が存在するが、主に前者を用いる傾向にある。明示的方向づけ文の主題には、「本研究・本研究類似型」「本稿・本稿類似型」「動作主体型」「目的・目的類似型」「指示語型」があり、「本研究・本研究類似型」が相対的によく使用される。ただし、明示的方向づけ文の中には、主題を明示していないものも一定数存在する。また、方向づけ文の導入に際し、順接表現を文頭に置かないことも少なくないことから、医学系論文では、文章間の論理関係の把握を読者の推測に委ねた記述スタイルも比較的浸透していることが示唆される。

一方、暗示的方向づけ文については、「必要性の提示文」「成果の提示文」といった方向づけの理由としての役割を果たす文が用いられる傾向にある。

また、方向づけ文が存在しない序論についても、研究の背景と関わる問題点の指摘、研究の背景と関わる経験報告といった、方向づけの理由としての役割を果たす文が用いられる傾向にある。

5. お わ り に

以上、本稿では、医学系論文の序論について、「序論のセクションの有無、段落数、タイトル」「方向づけ文の初出段落」「方向づけ文の表現類型」の三つの観点から、調査に基づく分析を行った。その結果、第4節で述べたことが明らかとなった。本結果は、今後、異なる学問分野における序論のプロトタイプを比較する上での基礎資料となる。

今後は、他の学問分野における序論についても同様の調査・分析を行っていき、異なる学問分野間の序論の相違を明らかにしていきたい。

注

- 1 学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービスで、国立情報学研究所により運営されている。
- 2 本稿では、「照応する先行詞から主題が予測できるもの」は、「主題が非明示的なもの」には含めない

こととする。

参 考 文 献

- 学習技術研究会（2015）『知へのステップ第4版—大学生からのスタディ・スキルズ—』くろしお出版
 新村出編（2008）『広辞苑第6版』岩波書店
 中澤務ほか編（2007）『知のナビゲーター—情報と知識の海・現代を航海するための—』くろしお出版
 日本看護協会編（2013）『看護実践研究・学会発表のポイント Q & A 下巻—論文作成から投稿へ—』日本看護協会出版会
 日本国語大辞典第2版編集委員会編（2001）『日本国語大辞典第2版』第7巻 小学館
 浜田麻里ほか（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

調査対象とした論文の NII 論文 ID (NAID)

110009657381	110009611491	110009668428	110009685869	110009603490
110009688420	110009611492	110009668429	110009685870	110009634892
110009593093	110009611493	110009668430	110009685871	110009634893
110009635091	110009634818	110009668433	110009685875	110009634894
110009661242	110009634819	110009668439	110009603473	110009634895
110009661243	110009578669	110009635588	110009603474	110009634896
110009593200	110009578670	110009635592	110009603475	110009634897
110009593201	110009596720	110009635595	110009603476	110009634898
110009457767	110009624829	110009635596	110009603477	110009634899
110009457768	110009624831	110009635598	110009603478	110009634900
110009457769	110009657879	110009635601	110009603479	110009634901
110009457770	110009661839	110009661329	110009603480	110009634902
110009577662	110009594312	110009661330	110009603481	110009634903
110009577663	110009594314	110009661331	110009603482	110009634904
110009577664	110009594319	110009661332	110009603483	110009634905
110009577665	110009597486	110009661333	110009603484	110009798380
110009577666	110009597487	110009661338	110009603485	110009798381
110009577667	110009597489	110009685861	110009603486	110009798382
110009611487	110009597490	110009685862	110009603487	110009798383
110009611488	110009597495	110009685864	110009603488	110009798384
110009611489	110009668424	110009685867	110009603489	110009798385

110009798386	110009660434	110009594898	110009594478	110009673805
110009798387	110009660445	110009594899	110009594479	110009673806
110009798401	110009660446	110009594900	110009594480	110009673807
110009594959	110009660449	110009615107	110009594482	110009673808
110009594960	110009603458	110009615108	110009594483	110009688100
110009594962	110009603459	110009615109	110009594484	110009688101
110009594964	110009603460	110009615110	110009604094	110009688102
110009594965	110009624358	110009661218	110009604095	110009688103
110009594967	110009624359	110009661219	110009604096	110009688104
110009594970	110009624360	110009661220	110009615763	110009688105
110009594971	110009685298	110009661221	110009615764	110009684866
110009594973	110009685299	110009661222	110009615765	110009684867
110009594974	110009685300	110009687897	110009615766	110009684868
110009594976	110009685301	110009687898	110009615767	110009684869
110009660414	110009685302	110009687900	110009615768	110009684870
110009660416	110009685303	110009687901	110009615769	110009684871
110009660418	110009685304	110009594569	110009615770	110009684872
110009660419	110009604426	110009594578	110009635801	110009684873
110009660420	110009611504	110009625213	110009635802	110009684875
110009660421	110009611507	110009625214	110009635803	110009684877
110009660423	110009611510	110009625216	110009635804	110009684878
110009660426	110009611512	110009675130	110009635805	110009684881
110009660427	110009594895	110009675131	110009635806	110009684882
110009660432	110009594896	110009675132	110009673803	110009798925
110009660433	110009594897	110009594477	110009673804	